

ニューヨークを拠点に、スライドショーという形にこだわりながら活動する写真家・トヨダヒトシの上映会を北の二都市で行います。

映像日記ともよばれるトヨダの写真が映し出すのは、ニューヨークのフラットでのささやかな食事、闘病中の母親について通った病院、一時生活をともにしたアーミッシュの村の人々など、写真家が生きてきた日々の出来事です。

スクリーンに現れる写真の数秒の光景、消え去ったあとを覆う余韻の間、次の瞬間再び立ち現れるあらたな光景。この絶え間ない連続は、驚くほどいきいきと写真家が生きた時間を上映の現場に生起させます。

「ものごとは永遠に、そして瞬間瞬間に、現れては消える。僕が写真を、紙に定着されたものとしてではなく、スライドショーという形で消していくのはそのためです。」と語るトヨダ。そのショーは、一見、線的に流れるような私たちの時間が、実は一瞬一瞬のごく小さな生と死の明滅の点の連なりによって成るものであることを教えてくれるようです。

トヨダはこれまで、古い教会や廃校といった、「時間」が堆積する場所を好んで会場にしてきました。今回もそうした二つの場所が舞台になっています。一つは、五千年以上前の人の営みの気配を漂わせる三内丸山縄文遺跡の竪穴式住居内、もう一つは、水脈の通る原野を下敷きにした明治時代の工業ブロックの一角「岩佐ビル」*の屋上です。

これらの古層にトヨダヒトシという今を生きる一人の時間のレイヤーをそっとのせてみる。そこにどんな「写真」が浮かび上がるのでしょうか。

*岩佐ビルは、かつての札幌ビール工場(現札幌ファクトリー)北側に位置し、札幌景観資産に指定された建物。このエリアは明治初期の開拓使時代の工業ブロックで、近くには「永山武二郎邸」等、明治期の史跡が多く残され、豊平川伏流水の湧水地、伏龍川源流にあたる場所。



トヨダヒトシ

ニューヨークで生まれ東京で育つ。1993年以來ニューヨークを拠点にし、ブロードウェイ沿いの駐車場やチャイナタウンの公園、教会、劇場といったパブリック・スペースにおいて映写機を自ら操作して上映するライブ・スライドショーという形式での長・短編の映像作品を発表し始める。2000年より日本でも東京都現代美術館、世田谷美術館、ヴァンジ美術館、岡本太郎美術館、タカ・イシイギャラリー(東京)、photographers' galleryなどでの上映の他に、山奥の廃校になった小学校の校庭、あるいは米国各地の映画祭などにも一貫してライブ形式による上映を続けている。 <http://www.hitoshitoyoda.com/>

2012

6/29~7/1 AOMORI 青森

三内丸山縄文遺跡 大型竪穴式住居内

7/7 SAPPORO 札幌

岩佐ビル屋上

HITOSHI TOYODA

VISUAL DIARY / SLIDE SHOW

トヨダヒトシ 映像日記・スライドショー